

## 2 急病・急な症状（一般）

### 意識障害

- ・大声で呼びかけ・肩などを叩く  
無反応であれば「昏睡」  
刺激に反応「半昏睡」  
返事あり「意識混濁」
- ➔手分けして119番と応急手当を



① 仰向けに寝かせ、衣服やベルトをゆるめて体を楽に。

② 昏睡・半昏睡では、直ちに気道の確保を。図のようにあごを持ち上げ、頭を後ろに曲げるように固定する（**頭部後屈あご先拳上法**※2ページ参照）。

③ 傷病者の胸の動き、呼吸音、息の吐き出し（呼気）を確認。

④ 普段どおりの息があれば回復体位（※6ページ参照）にし、救急車の到着まで毛布などで保温。普段どおりの息をしていなければ心肺蘇生を開始（※1～4ページ参照）。

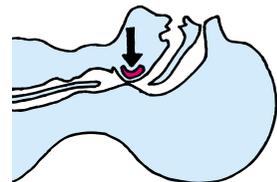


こうくつ きょしよう  
頭部後屈あご先拳上法

### 注意

\*意識を失うと<sup>いんどう</sup>咽頭部の筋肉や舌の力が抜け、舌のつけ根がのどに落ち込んで気道をふさいでしまい（舌根沈下）、放っておくと呼吸ができなくなります。激しいいびきは呼吸困難の危険症状。すぐに応急手当②の気道確保を。

\*頭部に打撲・外傷がないときの意識障害の原因としては、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、糖尿病性昏睡、慢性腎不全による尿毒症などが考えられます。



ぜっこんちんか  
舌根沈下

## メモ

# 倒れている傷病者の体位と安静

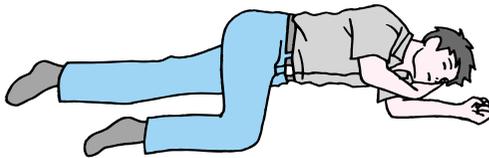
### 〈判断〉

- ◆反応はないが普段どおりの息をしている
- ◆おう吐や吐血がみられる
- ◆救助者が1人でやむを得ず傷病者のそばを離れるときなど

### 〈判断〉

- ◆自動車にはねられた
- ◆高所から落ちた
- ◆胸より上に大きなケガをしている
- ➔首の骨（頸椎）損傷の可能性あり

## 回復体位



## 首の安静



### 〈方法〉

- 1 肩と腰を支えて傷病者を横向きにする。
- 2 下側の腕を前に伸ばし、上側の腕を曲げて、その手の甲に顔を乗せる。
- 3 下あごを前に出して気道を確保。口元は床面に向ける。
- 4 姿勢安定のため、上側のひざを約90度に曲げる。

※長時間の同じ回復体位は避けること。

### 〈方法〉

- 1 寝かせたまま、傷病者の頭を両側から手で包み込むように支える。
- 2 頭を引っ張ったり、動かしたりせず、そのままの姿勢を保持して救急隊の到着を待つ。